

中部ESD拠点運営委員会（第31回）議事メモ

日 時 平成23年1月17日（水）18時30分～20時30分

場 所 中部大学名古屋キャンパス（8-C号室）

出席者 竹内委員長、寺井、高山、黒岩、の各委員

事務局 古澤、岡本

議 事

1. 報告事項

1) 愛知県の誘致について

竹内委員長より、国連「ESDの10年」の最終年である2014年に日本で開催されることが確定している総括会議に対して、愛知県が誘致活動をはじめることが発表された旨の報告があった。

これは、1月4日の愛知県知事の年始の記者発表で神田知事が明らかにしたもので、今後は愛知県、名古屋市、県・市の教育委員会、商工会議所、学長懇、中部ESD拠点で要請活動を開始する予定である。今後、文科省および内閣官房などへの要望活動に中部ESD拠点代表の飯吉氏に同行を依頼する旨の報告があった。

2) RCEアジア太平洋会議について

古澤事務局員より、1月12日から15日までインドネシアのジョグジャカルタで開催されたRCEアジア太平洋会議の参加報告が下記のとおり行われた。

- ・この会議は、RCEジョグジャカルタの幹事機関であるガジャマダ大学を中心に企画されたもので、学会方式で開催された。
- ・この中のセッションのひとつはRCEメンバーのみで実施され、国連大学からの近況報告が行われた後にテーマ別分科会が開催された。
- ・また、全体会では古澤事務局員が2010年に愛知・名古屋で開催された生物多様性第10回締約国会議COP10の報告を行い、2012年にインドで開催されるCOP11に向けた連携の可能性を模索した。
- ・今回の参加RCEは、韓国から2つ、カンボジア1つ、インド1つ、インドネシア3つ、フィリピン1つ、日本1つの計10RCEであった。
- ・分科会は、10のRCEを細かく分けることで議論が進まないことを避けるために大きく二つのグループにわけた。ひとつは、「学校教育と若者」もうひとつは「生物多様性」であった。
- ・「生物多様性」の分科会では、RCEジョグジャカルタやRCEトンヨンなどが参加し、2010年にRCEジョグジャカルタがマレーシアのペナン、韓国のトンヨン、日本の中部地域を訪問し、生物多様性に関わる連携活動の模索を行ったことが報告された。
- ・今後のアクションプランとして、伝統的・地域的な生物多様性保全の知恵を伝えるという主

目的を設定し、「食と生物多様性」「健康と生物多様性」「森林と生物多様性」「海洋と生物多様性」などのテーマで協働することを確認した。

- ・また、RCE中部はサイバー対話事業を継続し、SNSのFACEBOOKを使って広く参加者を募る点などが報告された。
- ・「学校教育・若者」および「生物多様性」それぞれの分科会からは、今後、具体的に予定されている関連イベントや活動の紹介があった。（「健康と生物多様性」の関連では、マレーシアのペナンで今秋にフォーラムを開催するなど）。
- ・その他、次年度のアジア太平洋RCE会議の開催地候補として立候補はなく、未定のままとなった。
- ・RCEトンヨンのアジア太平洋RCEセンターの建設が2月からはじまること、その後、海外からのRCEを対象に客員スタッフを募集する旨がRCEトンヨンから報告された。
- ・グローバルRCEセンター（国連大学）は、RCEのポータルサイトの作成をはじめており、ほぼ完成したとの報告があった。

2. プロジェクトの進捗について

- 新事業年度の最初の運営委員会であることから、昨年11月の総会で承認された活動計画に沿って進捗状況の確認を行った。
- 羽後委員（電話にて）より、1月23日に開催予定の「伊勢・三河湾流域圏フォーラム」の概要が説明された。内容は、COP10の総括と、生物多様性の10年に向けた今後の活動内容の討論との旨が報告された。
- 今秋に開催予定の「ESDの10年・地球市民フォーラム2011」に関して、古澤事務局員より進捗状況が報告された。現在、主催者である「ESD世界の祭典推進フォーラム」が地球産業文化研究所からの助成金を受けるべく申請を行っており、中部ESD拠点申請を行っているモリコロ基金と内容が重複しないことを明らかにする必要がある旨の報告があった。

3. 中部ESD拠点連続講座について

新海委員が作成した次回連続講座の開催企画案を基に種々議論を行った。

- ・新海委員の案は、ユネスコ・スクール事業の活性化がテーマで、3月3日に開催予定であった。
- ・2014年の誘致を決めた愛知県のスタッフなどにとっても魅力的な講座としたい。
- ・ユネスコ・スクールのことをよく理解していない我々がユネスコ・スクールの推進を目的にして講座の呼びかけを行うことには無理があるのではないか。
- ・むしろ、「ユネスコ・スクールと今後どのように連携できるか」という内容にしてはどうか。
- ・2014年のことも考慮し、「2014年に向けてユネスコ・スクールとESDはどのように連携できるのか？」というタイトルではどうか。
- ・三重や愛知のユネスコ・スクールからも参加してもらえるように依頼をする。

以上の議論を新海・千頭委員に報告し、修正案を作成してもらったこととした。

4. その他

- 古澤委員より、「E S Dの10年・世界の祭典」推進フォーラム事務局長の福井昌平氏より、昨年 R C E岡山で開催されたE S Dの10年・事業化ワークショップを中部で開催してはどうかという提案を受けていることが報告され種々議論を行った結果、開催に向けて前向きに検討を進めることとなった。本ワークショップの参加者は、R C E中部を中心としたこの地域のE S D関係者に、2014年誘致メンバーを加え、さらに、国内の他のR C Eメンバーや「E S Dの10年・世界の祭典」推進フォーラム関係者が見込まれている。内容は、R C E中部の活動の見える化や、2014年に向けた今後の計画を論じるもの。経費は、「E S Dの10年・世界の祭典」推進フォーラムが地球環境基金から得ている助成金で賄うこととなり、開催時期は7月、8月の夏を候補とする。

以 上